



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク  
**あったかウェルねっとニュース 第31号**

2018年10月12日発行

ホームページアドレス <http://www.geocities.jp/attaka17/>

2011年3月11日の東日本大震災より7年半が経ちました。失われた多くの尊い命のご冥福を祈り続けるとともに、一日も早い被災地の復興・復旧を願い、被災された皆様の安心安全を心よりお祈り申し上げます。

あったかウェルねっとの「ウェル(WELL)」は、Welfare(福祉)、Well-Being(幸福)のWell(大切にという意味)で、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたい、との願いが込められています。

事前の申込み  
をお願いします

日時：平成30年11月10日(土曜)  
14時～16時30分

場所：坂戸市文化施設オルモ ギャラリー1・2・3  
東武東上線北坂戸駅 東口下車 すぐ前

内容：イベントのコーナーを巡りながら、気の合う  
仲間や興味・関心事を見つけ、気づき合う。

参加費：500円

募集：関心のある若者たち(20才以上の未婚者)  
先着30名

※なお、運営スタッフ20名(年輩制限なし)  
の募集は終了しました。

主催：あったかウェルねっと(彩の国福祉教育・  
ボランティア学習推進員ネットワーク)

共催：鶴ヶ島市社会福祉協議会  
(つるがしま婚活支援センター)

後援：埼玉県・埼玉県社会福祉協議会

協力：埼玉県福祉部少子政策課&坂戸市総合政策部  
企画政策課(SAITAMA 出会いサポートセンター)

【開催主旨】地域共生社会での結婚観を題材にした、若者たちの出会いの場を作る。そして、地域のあたたかい繋がりや相手を大切に思う繋がりなどを地域で学び合いながら、若者の夢についても共感共有しあい、今後に向けて若者のカップル誕生の機運を醸成していく。

申込先：ねっと事務局 須田 049-283-1865(FAX)  
メールアドレス masako@niconico39.net

☆「誰にとっても聴こえやすい音」を目指し開発された  
ミラリスピーカー「カーヴィ」を体験できます。



好評の場合は続いている予定も！  
(案)まなびばしゃべりばカフェ スペシャル2  
「スペシャル版をふりかえろう！」

**地域のあたたかいつながり**

**福祉教育実践を県内に広げましょう！**

地震、大雨、台風等々の災害が相次ぎました。誰もが被災者になり得る現実に「ふだんのくらしのしあわせ」をあらためて考える昨今です。ますます、相互に支え合う地域づくり、地域のあたたかいつながりの大切さに気づかされます。

さて、今年度も昨年に続きスキルアップ研修 Part 3を8月に開催しました。同時に、昨年度のスキルアップ研修 Part 2のプログラムを活かし、みんなで企画を重ねてきた「まなびばしゃべりばカフェ2018 スペシャル」を開催します。

様々な機関とつながりながら、埼玉県から発信し、近隣へも福祉教育の輪を広げていきましょう。

**お知らせ 主催事業**

**まなびばしゃべりばカフェ スペシャル  
結婚観を探ろう！知ろう！**

今回のまなびばしゃべりばカフェは、拡大版のスペシャルイベントです。「結婚」をキーワードにしながら、「こんな生き方もあるよ」「自分がどうしたいかを大切に」「地域のあたたかいつながり」「相手を大切に思うつながり」を考え合いましょ。

# 報告 その1 主催事業

## 福祉教育実践者のスキルアップ&育成研修 part3 福祉教育実践力アップ研修

平成30年8月20日  
(月曜)、坂戸市文化施設オルモにて「福祉教育実践力アップ研修 part3」が盛り沢山な内容で行われた。



猛暑日にもかかわらず、福祉教育に関心をもつ、障害当事者・市町村社協職員・ボランティア・学生など様々な分野からの約40名が参加。講義・演習・対談を通して学び合い、交流し合い、充実した研修となった。

### ★研修(1) 「福祉教育概論その3」 ～メンタルヘルスと福祉教育～

講師と助言を快く引き受けくださった、松本すみ子先生(東京国際大学副学長・人間社会学部学部長)による「福祉教育概論その3」で、これからの福祉教育実践に必要な実践力と方策を学びました。松本先生のこれまでの実践と研究に基づく貴重なお話をたくさんお聞きすることができ、メンタルヘルスの視点を加味した内容は、今後の実践に向けてスキルアップになる講義となりました。

学び1\_実践:メンタルヘルスの福祉教育授業より  
\*小中高、大人へもチームを組んで行なっている、お互いを認め合って交流する体験では、互いに知り合って、わかり合っていく。

→ 《教えるのが福祉教育ではない》

学び2\_背景:①福祉教育を必要とする制度・政策の動向「地域力強化検討会まとめ」より

- a) 地域共生社会を実現する。 b) 従来の縦割り福祉からの脱却。 c) 分野横断的・全対象型地域支援体制の確立。 d) 地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティをつくっていく。

→ 《地域包括ケアシステムの構築》

②偏見と差別を乗り越える方策「地域共生社会の実現」とは

誰もが(生活福祉課題抱える人も)、その人らし

く(自分の望む生活や人生を)、暮らせる(住居/医療/雇用/所得/参加の保障/居場所/役割の創出)、まちを、みんなで、創る(社会資源/地域社会関係/ネットワークの創出)

→ 《地域で暮らしていくための基盤を協働で創る》

学び3\_「福祉教育実践プログラムのプロセス」

1. レディネス(教育機関と実施団体が連携し、事前教育を行う。)
2. アクション(ボランティア・メンターを付けて、活動当日から活動後のフォロー等を行う。)
3. リフレクション(福祉教育の精通者がファシリテートし、学生同士によるグループディスカッション場面を設ける。)

### ★研修(2) 演習「Tアップゲームプログラムから学ぼう」

(Tアップゲーム=鶴ヶ島市地域力向上ゲーム)

「ういず・共に」(鶴ヶ島市福祉教育実践団体) 木口代表より

**目的** 日々の暮らしの中で起こりうる諸問題に対し、地域で支え合うための対応力の向上を図り、気づき合うための地域力向上ゲームであること。

**演習の流れにおける目的** ○参加者の立場から考えられる支援を出し合ふことで、自分たちの暮らす地域の社会資源の理解を深める。○意見交換の中で、様々な対応が考えられることを知る。○必要とされる支援や、不足していると思われる社会資源をした上で取り組めそうな事に視点を向ける。

…などの説明に続いて、グループ毎のファシリテーターのリードでグループワークが和気藹々と進み、「諸問題に対し、地域で支え合うための対応力」の演習からも福祉教育が目指す「共に生きる地域社会」の大切さを学びあった。

### ★研修(3) 話題提供「埼玉県の施策」

ゲストスピーカー:友田尚武氏(埼玉県福祉政策課)  
「社会福祉法の一部改正及び第5期埼玉県地域福祉支援計画について」福祉教育との接点についてわかりやすくお話いただいた。

抜粋1. \*「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法の一部を改定する法律」は平成29年6月2日に公布された。\*この法律には、地域共生社会の実現に向けた「我が事・丸ごと」の地域福祉推進などを新たに規定した社会福祉法の一部改定が含まれており、平成30年4月1日施行。

# 報告 その2 と予告

## ～草加市福祉体験学習サポーター養成講座～ 研修会の講師をしました。

7月25日(水曜)、草加市文化会館で行なわれた福祉体験学習サポーター養成講座を担当しました。草加市社会福祉協議会では、福祉体験学習を市内の小学校21校で、特に小学4年生を対象に車いす体験、アイマスク・白杖体験、高齢者疑似体験(3種目)をおこなっているようですが、新たな福祉体験協力ができる指導者及びスタッフの育成が必要となったとのこと。

前半は「今なぜ福祉教育が必要な?」「福祉って生きるって?」「疑似体験のイロハ」の講話。その後、3グループに分かれ、車いす・高齢者・視覚障害プログラムを40分ずつ交替で体験していただきました。40名を超える地域の方が受講され、熱心に学び合っていました。



写真上から  
・高齢者体験(担当:横田八枝子、関口久美子)…聞こえにくさ、見えにくさ、動きにくさの体験を通して、高齢者の暮らしを考える。  
・車イス体験(担当:高橋キミ子)…介助する人される人のコミュニケーションの大切さも。  
・アイマスク体験(担当:木野登紀子、須田正子)…ガイド体験のあと、アイマスク着用で水を飲む・小銭を数える等の体験をしながら、暮らしの工夫に気づき合う。

抜粋 2. \*埼玉県の現状 a)人口の減少と人口年齢構造の変化 b)単独世帯の増加 c)少子化の進展 &異次元の高齢化 d)NPO 法人(増加)、ボランティア数(現状維持)但し、30代男性が地域活動に参加傾向にあるところは埼玉の強みである。

抜粋 3. \*計画の理念「みんなで繋がり、地域力を高める埼玉づくり」

抜粋 4. \*基盤づくりで課題の「8050問題」。今後、本人と親が高齢化していく中で適切な支援がないと孤立してしまう。そこで「80」の問題だけでなく「50」の問題についても適切な相談機関などが期待される。等々学びが多かった。

### ★研修(4)対談「埼玉県発!地域福祉のカタチ」

～誰もが誰かのためになるさいたまを目指して～

牧野郁子氏の進行で、友田尚武氏・松本すみ子氏より、「埼玉発の福祉教育実践」が、「地域福祉のカタチ」となっていく。それは、研修(1)や研修(2)の学びを軸に実践を継続していくこと。

「やっぱり福祉教育は大切!みんなで埼玉県から発信していきましょう!」と、まとめて頂いた。



### 昼食時に福祉用具の体験も

県社協より提供された「暮らしの中のいろいろな福祉用具」一式を体験する事が出来ました。

展示用ミラリスピーカー「カーヴィ」での体験もできました。



## スキルアップ研修 part3 をヒントに

### 毛呂山町中学校の福祉授業で新プログラム

いどばた管理人:木野登紀子(毛呂山町)

スキルアップ研修 part3 からヒントを得て、毎年依頼がある毛呂山町中学校の福祉授業で9月7日と14日の両日5、6時間目をいどばた9名と毛呂山町のボランティアにご協力を頂き、以下のプログラムを実施した。

- 1) ゲストスピーカーによる視覚障害者の生活のお話と生活課題の提起(毎日の生活で困っていること)
- 2) グループワーク(サービスマーケティングの視点より)中学生用SLゲーム(視覚障害者編)視覚障害者の生活課題から自分(中学生)に今できることを探り発表する。
- 3) ガイドヘルプのデモンストレーションとレクチャー(実践に向けて大事なことの伝授)
- 4) 振り返りとまとめ(分かったこと。気付いたこと)

## 日本福祉教育・ボランティア学習学会開催

11月24日(土曜)・25日(日曜)に日本福祉大学で行なわれる「第24回あいち・なごや大会～共生文化創造への途～福祉教育・ボランティア学習の新たな展開を探る～」に参加します。横田代表も若者への福祉教育研究会から発表します。

## Withyouさいたまフェスティバルは2月に

今年度もwith youさいたまフェスティバルに参加します。平成31年2月1日(金曜)～3日(日曜)に行な

われます。ブースを設けて広報活動をするともに、訪れる方々や参加団体と交流します。ご予約に入れ、是非ご参加ください。

## 若福研究会コーナー

### 若者への福祉教育研究会 実践プログラム集発行・報告会

～埼玉発！草の根からのプログラム～「次世代の共生力を育むための福祉教育実践プログラム集」が出来上がりました。2年間を区切りとして研究してきた成果です。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。



PDFデータのダウンロードができます。以下の若福研HPより「報告書」をクリック  
<https://wakafukuken.wixsite.com/saitama>

8月14日(火曜)、ウェスタ川越にて、アドバイザーの先生方と報告書を執筆した人たちを中心に集まり、若福研の意義とこれからについて語り合いました。



問い合わせ：若者への福祉教育研究会事務局兼  
あったかウェルねっと事務局（須田正子）  
FAX 049-283-1865 メール [masako@niconico39.net](mailto:masako@niconico39.net)

## 県社協からの情報

＜参加者を募集します！＞

### 地域包括ケアシステム推進セミナー

厚生労働省の研究会の座長として地域包括ケアシステムの策定に携わってこられた田中 滋氏をお迎えし講演いただきます。その他、地域包括支援センターや社協の実践報告も行いますので、ぜひ御参加ください。

日時：平成30年11月8日（木）13：30～16：00  
会場：埼玉県県民健康センター 大ホール  
基調講演「地域包括ケアシステムの深化と多職種協働」講師：埼玉県立大学 理事長 田中 滋氏

詳しくは、埼玉県社協HP→イベント案内へ  
URL <http://www.fukushi-saitama.or.jp/site/perf/events/>

＜皆様の活動でぜひご活用ください！＞

### (1)生活支援サポーター養成事業

支え合う地域づくりを推進するため、生活支援サポーター（地域に関心を向けていただく応援者）を養成しています。皆様が企画する研修や活動と兼ねて実施できます。参加者には「サポーター証」をお配りしていますので、啓発のツールとしてご活用ください。

URL：<http://www.fukushi-saitama.or.jp/site/perf/cat294/>

### (2)暮らしの中のいろいろな福祉用具貸出し事業

介護すまいる館では、福祉用具に触れることで、関心と理解を深めることを目的に、毎日の生活の中で便利な物、コミュニケーション用品、食事、服薬に関係する用品等全45品をセットにし、貸出ししています。

URL：<http://www.fukushi-saitama.or.jp/site/care-smile/notice/news/post-28.html>

## 事務局情報

メールリングリストで情報を

会員・賛助会員の方でメールアドレス（携帯も可）をお持ちの場合、メールリングリストの登録ができます。希望する方は事務局まで。

ねっと事務局 須田 049-283-1865 (FAX)

メールアドレス：[masako@niconico39.net](mailto:masako@niconico39.net)

会費振込先のお知らせ

活動は、ねっと会費(年1000円)で運営しています。みなさまのご協力をよろしくお願い致します。

振込先：埼玉りそな銀行武蔵浦和支店・

普通預金口座番号：5015782

名義：彩の国福祉教育ボランティア学習推進員ネットワーク

編集後記

今年度前半はお伝えしたい活動ばかり。今号は盛りだくさんの紙面になりました。読書の秋の一興に。

発行：彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員  
ネットワーク(通称：あったかウェルねっと)  
編集：あったかウェルねっと(情報担当)  
連絡先：埼玉県社会福祉協議会地域活動支援課  
TEL：048-822-1435